

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3502										
科目名	災害情報論										
担当教員	宮脇 健, 中森 広道										
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期								
曜日・時限	火 4										
講義室	1310	単位区分	選必								
授業形態	講義	単位数	2								
科目大分類	専門										
科目中分類	専門展開										
科目小分類	専門・危機管理										
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード DP1-E 【学識・専門技能】専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-I 【理解力・分析力】文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 C1 倫理的思考・社会認識（10%） E1 学識と専門技能（50%） F1 探求と論拠（5%） F2 課題解決（5%） G1 状況把握（10%） I3 情報分析（20%）										
教員の実務経験	担当者2名は気象庁の専門職員を養成する気象大学校で防災社会学を教えた経験があります。気象・災害現場の最前線に立つエキスパートを育成するために設置された科目での実践的な知見や授業経験を活かしながら講義を行う予定です。（1回、2回、3回、4回、5回、6回、7回、8回、9回、10回、11回、12回、13回、14回、15回）										
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期										
科目概要・キーワード	災害が発生した時に被災者の命を守るために鍵となるのが災害に関する情報です。災害や事故などが発生した時に人々に危機を知らせるためのメディアを通じた災害情報から、人々に避難行動や対応行動をとらせるための避難指示や警報、または被災者にとって必要な情報やメディアを活用した安否確認など、災害情報は災害対策に不可欠な要素です。災害の事前対応であるリスクコミュニケーションと災害の事後対策であるクライシスコミュニケーションの両面から、災害における情報の問題を考察します。授業形態は(講義・演習)形式により行います。なお、対応するコンピデンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 災害情報、リスク・コミュニケーション、クライシス・コミュニケーション、メディア										
授業の趣旨	■副題 災害に関する情報の発せられるメカニズムを学び、人の心理にどのような影響を与えるのか、また社会的な影響はどのように波及するのか理解します。 ■授業の目的 災害が発生した際に、①個人が対応するために必要な情報を収集する術について知り、②自身が身を守るためにはどのような情報が必要なのか、そして、③自分の周りにいる人、地域や自治体の対応に必要な情報がどのようなものか、について学修します。この学修に基づき、災害が発生する前(事前)と後(事後)において必要な情報をどのように住民へ提供すればよいのか、その課題を解決するための方策について自分の力で説明できる能力を身につけることを目的としています。 ■授業のポイント 災害情報は、人の財産や生命の危機を左右する重要な情報です。そのため、災害の大小にかかわらず、その情報を正確に人に届けるための、いかにして情報を発すればよいのか、また逃げ遅れはないかどうか、など注視すべき点は非常に多くなります。そのため、災害に関する情報の発信されるメカニズムと人が情報を受け取り行動するメカニズムの両方の側面から、災害情報の可能性と課題について考察することで、災害情報について学んでいきます。										
総合到達目標	災害が発生した際に対応ができるようにするために、災害に関する情報の特質などを理解し、災害情報を活用することでその実践ができるようになる。 ■災害情報に関する理論について説明できる。 ■災害の際の情報リテラシーを身につけることができる。 ■災害情報の特性について列挙できる。 ■災害が起こった際にその特性に合わせた情報収集ができる。 ■災害情報について検討することで、地域の災害対応の問題点について解決方法を提案できる。										
成績評価方法	■リアクションペーパー:5回（30％） 適応ルーブリック E1、I3 (評価の観点) 災害情報の授業で学んだ事例や理論の正確な理解を確認するために5分～10程度の時間をかけて行います。 (フィードバックの方法) 授業中または次の回の授業で回答例を提示し、復習をします。 ■授業内レポート:1回（40％） 適応ルーブリック C1、E1、F1・F2、G1 (評価の観点) 災害情報の15回の授業内容を踏まえた課題を提示し、その課題への問いの設定、そして解決のアプローチが的確かどうかを判断するために実施されます。 (フィードバックの方法) 提出後に授業の中で、回答例を提示し、復習をします。 ■小テスト: 2回（30％） 適応ルーブリック C1、E1、F1・F2、G1 (評価の観点) 災害情報に関する資料やデータの読み解きをすることで災害情報を提供する際の問題点の抽出、解決方法に関する理解を問うために授業中に実施します。 (フィードバック) 授業後に回答の解説と配点などについて説明を行います。										
履修条件	特にありません。										
履修上の注意点	特にありません。										
授業内容	<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>①授業テーマ 「災害情報」とは何か？ ②授業概要 災害情報とはそもそも何か、本科目の意図を理解するために災害情報の性質と送受信する手段について学ぶことにより（E1）、災害情報の意義について理解し、説明できるようにする（I3） ③予習（120分） 常総市・熊本市のHPの災害情報を閲覧のこと。 ④復習（120分） 災害の際に自身が入手している情報について列挙して、自分の災害発生時の情報の入手方法について考える。</td></tr><tr><td>2</td><td>①授業テーマ 災害対応と情報 ②授業概要 災害が発生した時に、まず対応にあたるのは、発生した地域の地方自治体、そして国などの機関である。その対応と情報提供が我々の災害への対応に影響を及ぼすことは言うまでもない。災害の発生時の国、地方自治体の対応の過程とその際の情報の過程について学ぶことで（E1）、災害が起きた際の役割と課題を具体的に挙げる事が出来るようになる（C1、I3） ③予習(120分) 内閣府 平成29年度『避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン 改訂版』（HPにPDFあり）の一章を読んでくる。 ④復習（120分） 自身の住んでいる地域の自治体の災害対応についてHPを閲覧して地方自治体の災害情報に関する対応は、どのようなものになっているのか、確認しメモをとる。</td></tr><tr><td>3</td><td>①授業テーマ 災害情報と人々の対応 ②授業概要</td></tr></table>			回	内容	1	①授業テーマ 「災害情報」とは何か？ ②授業概要 災害情報とはそもそも何か、本科目の意図を理解するために災害情報の性質と送受信する手段について学ぶことにより（E1）、災害情報の意義について理解し、説明できるようにする（I3） ③予習（120分） 常総市・熊本市のHPの災害情報を閲覧のこと。 ④復習（120分） 災害の際に自身が入手している情報について列挙して、自分の災害発生時の情報の入手方法について考える。	2	①授業テーマ 災害対応と情報 ②授業概要 災害が発生した時に、まず対応にあたるのは、発生した地域の地方自治体、そして国などの機関である。その対応と情報提供が我々の災害への対応に影響を及ぼすことは言うまでもない。災害の発生時の国、地方自治体の対応の過程とその際の情報の過程について学ぶことで（E1）、災害が起きた際の役割と課題を具体的に挙げる事が出来るようになる（C1、I3） ③予習(120分) 内閣府 平成29年度『避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン 改訂版』（HPにPDFあり）の一章を読んでくる。 ④復習（120分） 自身の住んでいる地域の自治体の災害対応についてHPを閲覧して地方自治体の災害情報に関する対応は、どのようなものになっているのか、確認しメモをとる。	3	①授業テーマ 災害情報と人々の対応 ②授業概要
回	内容										
1	①授業テーマ 「災害情報」とは何か？ ②授業概要 災害情報とはそもそも何か、本科目の意図を理解するために災害情報の性質と送受信する手段について学ぶことにより（E1）、災害情報の意義について理解し、説明できるようにする（I3） ③予習（120分） 常総市・熊本市のHPの災害情報を閲覧のこと。 ④復習（120分） 災害の際に自身が入手している情報について列挙して、自分の災害発生時の情報の入手方法について考える。										
2	①授業テーマ 災害対応と情報 ②授業概要 災害が発生した時に、まず対応にあたるのは、発生した地域の地方自治体、そして国などの機関である。その対応と情報提供が我々の災害への対応に影響を及ぼすことは言うまでもない。災害の発生時の国、地方自治体の対応の過程とその際の情報の過程について学ぶことで（E1）、災害が起きた際の役割と課題を具体的に挙げる事が出来るようになる（C1、I3） ③予習(120分) 内閣府 平成29年度『避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン 改訂版』（HPにPDFあり）の一章を読んでくる。 ④復習（120分） 自身の住んでいる地域の自治体の災害対応についてHPを閲覧して地方自治体の災害情報に関する対応は、どのようなものになっているのか、確認しメモをとる。										
3	①授業テーマ 災害情報と人々の対応 ②授業概要										

	災害時に地域や住民に求められる「自助・公助・共助」について学び（E1）、「自助・公助・共助」が災害時に情報とどのように関係することで人々の助けとなるのか、その役割と課題について理解することで具体的に挙げる事が出来るようになる（C1、I3） ③予習（120分） 自助・公助・共助とは具体的に何か調べてくる。 ④復習（120分） 災害時に自分がどのような対応をし、その情報はどのような経路で得たものか授業のレジュメを参考にしながらノートに書きだす。
4	①授業テーマ 災害情報とメディア ②授業概要 災害の際に、我々は何らかの情報を手掛かりにして、身を守ったり、避難したり、行動を行っている。我々が何らかの行動を行うためには、情報の伝達・収集・共有等に重要な役割を果たしているメディアは不可欠といえる。では、メディアの役割はどのようなものか、マス・メディア、インターネットメディア、超域メディアのそれぞれの特徴と課題について学ぶことで（E1）、その役割について説明できるようになる（I3） ③予習（120分） 気象庁HP「緊急地震速報について」を閲覧し、緊急地震速報の仕組みについて学んでくる。 ④復習（120分） メディアの特性や災害の特性に応じてメディアからの情報を使い分けられているのかどうか、授業のレジュメとノートをもとにしてノートに書きだす。
5	①授業テーマ 災害情報の課題 ②授業概要 災害情報の課題について、最新の研究の動向や近年起きた災害の事例をもとに災害情報の特性と課題について学ぶ（E1）。これらを学ぶことで、災害情報の現時点での有効性と限界について理解し、説明できるようになる（C1、I3）。なお、この授業で小テストを実施予定です。 ③予習（120分） 今までの授業のレジュメとノートから災害情報の特性について自分で箇条書きで列挙してくる。 ④復習（120分） 講義を受けて、予習したノートの修正を行い、課題についてまとめる。
6	①授業テーマ 災害とパニック（1） ②授業概要 災害時に生じる「パニック」について学び、日常で使われている「パニック」と災害研究で使われている「パニック」の違いを理解し（E1）、パニックの特性を説明できるようになる（G1、F1）。 ③予習（120分） 内外のパニックの事例を収集し、整理しておく。 ④復習（120分） パニック論・集合行動論などの関連文献を読む。
7	①授業テーマ 災害とパニック（2） ②授業概要 災害時のパニックに関するいくつかの事例について学び、それらの事例を考察し（E1）、得られた知見から、人々がイメージするパニックと実際の現象との違いについて説明ができるようになる（G1、F1）。 ③予習（120分） 前回の授業ならびに、集合行動論に関する文献からパニックの意味について整理しておく。 ④復習（120分） 吉井博明・田中淳編『災害社会学入門』（弘文堂）などを読み、「災害とパニック」についての理解を深める。
8	①授業テーマ 災害とパニック（3） ②授業概要 災害時に生じるパニックや社会的混乱を、情報やメディアとの関わりとともに学び(E1)、それらの特性を説明ができるようになる(G1、F1)。 ③予習（120分） 前回・前々回の授業を踏まえ、パニックについて整理しておく。 ④復習（120分） H.キャントリル『火星からの侵入』（金剛出版）などの、情報の混乱に関する書籍を読む。
9	①授業テーマ 災害と流言・風評（1） ②授業概要 災害に関する流言・デマの定義や意味を学び（E1）、それらの特性が理解できるようになる（G1、F1）。 ③予習（120分） 流言・うわさ・デマについて、その事例を整理しておく。 ④復習（120分） 廣井脩『流言とデマの社会学』（文春新書）、関谷直也『「災害」の社会心理』（ワニ文庫）など、災害と流言に関する文献を読む。
10	①授業テーマ 災害と流言・風評（2） ②授業概要 1923年の「関東大震災」、1995年の「阪神・淡路大震災」、2011年の「東日本大震災」をはじめとする災害の際に発生した流言・デマの事例を学び（E1）、それらの事例から、災害時の情報混乱の問題点が理解できるようになる（F2）。 ③予習（120分） 前回の授業内容を整理しておく。 ④復習（120分） 廣井脩『流言とデマの社会学』（文春新書）、関谷直也『「災害」の社会心理』（ワニ文庫）など、災害と流言に関する文献を読む。
11	①授業テーマ 災害情報と避難（1） ②授業概要 予報・警報と人々の対応について学び（E1）、警報の順機能・逆機能について理解できるようになる（G1、F1）。 ③予習（120分） 予報・警報について、気象庁のホームページなどを見て整理しておく。 ④復習（120分） 田中淳・吉井博明編『災害情報論入門』など関連文献を読む。
12	①授業テーマ 災害情報と避難（2） ②授業概要 自治体の発表する避難に関する情報と人々の対応について学び（E1）、自治体などの発行するハザードマップの有効性などについて理解できるようになる（F1）。 ③予習（120分） 内閣府や総務省消防庁のホームページを見て、避難に関する情報について整理しておく。 ④復習（120分） 田中淳・吉井博明編『災害情報論入門』（弘文堂）など関連文献を読む。
13	①授業テーマ 災害情報の展開 ②授業概要 震度情報・緊急地震速報を中心とした地震に関する情報について学び（E1）、近年の災害情報の進展と問題点について理解できるようになる（F1）。 ③予習（120分） 気象庁のホームページなどで、地震情報について整理しておく。 ④復習（120分） 田中淳・吉井博明編『災害情報論入門』（弘文堂）ならびに各方面で行われている「東日本大震災」の調査結果や関連文献を読む。
14	①授業テーマ 災害と報道 ②授業概要 これまでの災害に関する報道について、事例をもとに学び（E1）、それらの特性と問題点を理解できるようになる（F1） ③予習（120分） 新聞の縮刷版などで災害時の報道について考えておく。

	④復習（120分） 田中淳・吉井博明編『災害情報論入門』（弘文堂）ならびに過去の災害の新聞の縮刷版など関連文献を読む。 15 ①授業テーマ 総括・授業内試験 ②授業概要 授業内試験。講義の内容を整理して考察しながら、あらためて災害情報の特性を学び（E1）、授業内容ならびにこれからの災害情報の課題を説明できるようになる（F1、2）。 ③予習（120分） これまでの授業内容をまとめる、授業内試験に備える。 ④復習（120分） この授業で学んだことが、実際の災害時において、どのように活かせるのかを考える。
関連科目	災害対策論（RMGT3501）、自然災害論（RMGT3502）、災害と法（RMGT3401）
教科書	最初のうちはレジュメを配布する予定し、参考文献を複数冊記載するので読むことが望ましいです。5回目以降は中村功著『災害情報と避難 その理論と実際』晃洋書房 2021年を使用します。
参考書・参考URL	内閣府HP「防災情報のページ」 http://www.bousai.go.jp/ 気象庁HP http://www.jma.go.jp/jma/index.html その他、授業中に紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 金曜日3限。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント：70%、パブリックセキュリティ：10%、グローバルセキュリティ：10%、情報セキュリティ：10% ■危機管理学と法学のバランス 危機管理学：80%、法学：20%

